



チェック項目	はい ○	わからない (無回答)	いいえ ×	工夫点	職員間の改善目標他
環境・体制整備					
利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	50%		50%	体動のある子どもの配置	5名定員に沿った広さではありますが、成長と共にバギーが大きくなり、5月の移転が必要と考えております。
職員の配置数は適切であるか	100%				
設備等について、バリアフリー化の配慮等が適切になされているか	100%				
業務改善					
Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)サイクルに則り、職員が計画や相談に加わっているか	70%	15%	15%		
保護者の意向等を把握し、評価表による評価を実施し、業務改善につなげているか	90%	10%			
事業所としての自己評価を行い、支援の質の評価及び改善内容を公開しているか	100%				
第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		60%	40%	医師・担任等による見学とアドバイス	第三者評価の指定事業所は北海道では3か所となっており、外部評価は難しいのですが、関係機関等に状況の客観的な意見や指導を頂いていきます。
職員の資質の向上にむけた研修を行っているか	100%				療育、医療処置等について、今後も研修を重ねていきます。
適切な支援の提供					
アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、個別支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成しているか	85%	15%		研修を重ねていきます。	より良い個別支援計画作成にむけ、アセスメントを充実し、またアセスメントのための研修を受け努力していきます。
個別支援計画に沿った支援が行われているか	70%	15%	15%		職員間の支援会議等を十分に行っていく必要があり、会議内容の充実を心がけます。
活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%				
活動プログラムが固定化しないように工夫をしているか	90%	10%		季節や行事にあわせた活動	月毎の活動に、季節感を取り入れて活動プログラムを作成しています。
平日・休日・長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	80%	20%			週末、長期休暇それぞれの状況と体調にあわせて制作物やお散歩等に变化をつけています。
子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ個別支援計画を作成しているか	45%	25%	30%		医療的ケア児の状況と体調に個別支援計画の実施は困難さもあり、今後の課題となっております。
支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	90%	10%			
支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	70%	30%			非常勤職員の勤務状況によっては、当日中の振り返りが難しく、今後は改善方法を検討いたします。
日々の支援に関して正しく支援記録をとり、支援の検証や改善につなげているか	100%				療育内容、体調状況他を記録しています。
定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	55%	30%	15%		今後、体調や状況の推測をし、行っていく努力をしていきます。
放課後等デイサービスガイドラインの基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	50%	50%			体調変化や状態をみながら、可能な限りの支援を行っておりますが、より安全で安心できる個々にあった支援を考慮していきます。

保護者や関係機関との連携					
障害児相談支援事業所サービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい職員が参画しているか	70%	30%		児発管・看護師・作業療法士による参画	医療会議には看護師が加わる努力を行っていきたくはありますが、通常活動外に必要な専門職員については国へ報酬の見直し等を伝えていかなければ担当者会議ひとつにしても運営は厳しくなると考えます。
学校との情報共有（年間計画・行事予定等の情報交換・下校時間の確認・送迎対応等）を行い、連絡調整をしているか	85%	15%			授業終了後のお迎え時に先生からの連絡調整を今後も行っていきます。
医療的ケアの部分において。子どもの主治医（かかりつけ医）や協力医療機関等と連携体制を整えているか	100%				緊急時マニュアル作成のため、個々による医師の指示書を検討していきます。
就学前に利用していた保育所、児童発達支援事業所等との情報共有や相互理解を図っているか	70%	30%			
学校を卒業し（18歳）、障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供等しているか	100%				今回、卒業に応じ情報提供を行いました。
他の専門機関（児童発達支援センター、子育て会議、旭児連等）と連携し、助言や研修を積極的に受けているか	100%			旭児連・児相他研修参加	今後は、より多くの職員を研修に参加させていきたくは考えます。
障がいのない子どもたちと交流や活動する機会があるか	70%	30%			課外活動を今後も計画をしていきます。
日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	100%				連絡帳やメール等を利用し、情報共有をとっております。
保護者の対応力の向上を図る観点から、家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）の支援を行っているか	80%	20%			今後は、参観カルチャー教室内容に家族支援を行える項目を増やしていきます。
保護者への説明責任等					
運営規定、利用者負担等について丁寧な説明をしているか	100%				
保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%				
父母会の活動の支援をしたり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%			カルチャー教室・参観日・親子レク開催	参観日などの保護者様同士のお話の場を今後もつくっていきます。
子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備すると共に、相談や申し入れに対して迅速に対応しているか	100%				
定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信しているか	100%				
個人情報の取り扱いに十分注意しているか	100%				
子どもの意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%				
事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか	50%	50%			移転後はより地域の方々を開かれた情報公開を行っていきます。
非常時の対応					
緊急時マニュアル、感染症マニュアル等を策定し、発生を想定した訓練を実施しているか	85%	15%			マニュアルの定期的な確認と見直しを行っていきます。
定期的に避難訓練や救出訓練を行っているか	100%				年に春と秋の2回避難訓練を開催しています。
食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	85%	15%			医師の指示書を今後は検討していきたくは考えます。
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	85%	15%			小さな事もヒヤリハットとして記録する事を日常的に行っていけるよう意識化します。

虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか	60%	40%			虐待についての学習の機会を今後つくっていきます。
どのような場合に身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、十分な研修と説明を行った上で、個別支援計画に記載しているか	50%	50%			現在、身体拘束を必要とするお子さまは当施設にはおりませんが、強度行動障害基礎研修を修了した者を配置しています。 改めて検討し、適切に対応してまいります。

この自己評価結果（公表）は、事業所全体で行った自己評価です。